

公益社団法人
山鹿植木法人会広報誌

やまほう

(総会特集号)

総会特集号

令和 8 年 7 月 吉日

編集発行人

山鹿市山鹿 1664-1

公益社団法人山鹿植木法人会

会 長 中山 清志

編集責任者

専務理事 古川 清和

第 39 回通常総会を挙行！

山鹿法人会から ⇒ 山鹿植木法人会へ

第 1 部 本会通常総会

去る6月9日（火）、「公益社団法人山鹿法人会第 39 回通常総会」が、山鹿市の富士ホテルにおいて開催された。

本年度は、法人会の名称を法人会設立以降、「山鹿法人会」から「山鹿植木法人会」に法人会の名称変更することを議案として上程された、そのため、正会員の3分の2以上の賛同を得必要があり、多くの正会員の皆様の協力を得た。

当日の出席者、出席会員62名、委任状提出会員353名、計413名の出席により、総会は定款の総定数を満たし、開催した。

来賓には、地元山鹿税務署より前田康成署長、熊本西税務署の大脇英二副署長、熊本県県北広域本部鹿本地域振興局より時田一弘局長、山鹿市の鬼塚敦夫市民部長はじめ、友誼団体の各長及び受託3社の支社長等の幹部の方々を来賓にお迎えし、粛々と通常総会が実施された。

立花佳宗青年部会長の司会進行により、佐藤公俊副会長の開会の言葉の後、中山清志会長が次のとおり挨拶した。

本日は、山鹿税務署長はじめご来賓、会員の皆様には、多忙の中、「第39回通常総会」に御臨席を賜り感謝申し上げます。

6月は一年の折り返しを見据える大切な節目でもある。正解的な物価上昇やエネルギー価格の返送、物流の逼迫など、依然として企業経営には厳しい環境が続いている。また、デジタル化の加速や人手不足など、経営の在り方そのものが問われる状況が続いている。

一方で、観光需要の回復や地方への関心の高まり、地域資源を活かした新たな事業の芽生えなど、山鹿や植木地区にとって追い風となる動きもみられる。山鹿灯籠をはじめとする文化資源、豊かな農産物や温泉といった地域の強みは、改めて中毛を集めている。

こうした変化の中、法人会として果たすべき役割はますます重要になってきている。

昨年度は、健康経営の一環としてモルックの体験、地域企業間の連携強化、税務研修の充実など、会員企業の実務に寄り添う取り組みを進めてきた。会員相互の交流事業や地域貢献活動も会員の皆様の積極的な参加により実りあるものとなった。

本年度の総会においては、定款変更「法人会の名称変更」、令和7年度の決算報告の承認をご審議いただくとともに、令和7年度事業報告並びに令和8年度事業計画及び予算について説明させていただくこととしているが、率直なご意見を賜り、より良い法人会運営につなげていきたい。

新年度も、「法人会は税のオピニオンリーダーとして、学びあい、支えあい、地域とともに歩む法人会」を目指し、活動の一層の充実を図っていきたい。会員の皆様にとって“参加して良かった”と思える組織で有り続けるよう努めていくので、忌憚のないご意見を寄せていただきたい。

最後に、ご参会の皆様・会員企業の皆様のますますのご発展とご健勝を心より祈念申し上げ、挨拶とする。

◎ 第1号議案 山鹿法人会定款第1章（名称）変更の件

青年部会立花佳宗部会長の司会進行のもと、審議に入った。議長（中山清志会長）は座につき挨拶の後、議事録署名人及び議事録作成について指名するとともに、それぞれの指名人はこれを了した。その後、事務局に議案の説明を求めた。

事務局（古川専務理事）は、山鹿法人会の現在の問題点を説明し、平成23年に熊本市の政令都市移行に伴い、植木町「熊本市北区植木町」と熊本市に編入され、以後10余年が経過している。この間、植木町は経済発展とともに経済圏

も熊本市に移り、地域の中で「山鹿法人会」の植木町での立ち位置が曖昧となってきた。今後も、山鹿市と植木町はその地で事業を営む事業者の礎になるべく、「山鹿法人会」を「山鹿植木法人会」と名称変更し、両地域に寄り添う組織として活動していくと、今後の展望も含めて訴えた。

議長は、本件について承認を求めたところ、「山鹿法人会」を「山鹿植木法人会」に名称変更するということについては特段の反対意見もなく、満場一致をもって可決・承認された。

◎ 第2号議案（令和7年度決算承認の件）

議長は、令和7年度の収支決算について説明を求め、事務局は総会議案書に沿って、令和7年度当年度分につき、縷々説明した。

事業収入については、令和7年度から正会員の会費を引き上げたこともあり、前年度から大幅に増加したこと。また、令和6年度の会員増強、福利厚生制度の推進状況等の成果に対する報奨金があり、雑収入も増額となったこと。

一方、支出の部においては常勤役員の報酬（給与）を引き上げたことにより、人件費の

増額となった。加えて、諸物価の高騰等により通信費をはじめ、種々の支払いが増加した結果、正味財産期末残高は令和6年度に比し、若干の減少となったこと等を説明した。

続いて、議長は当該令和7年度決算につき監査結果を求め、監事木村三洋は、令和8年4月15日に監事石川了一及び外部監事菊川光一とともに、法人会事務局において監査を実施し、理事の職務執行に違反行為はなく、会計帳簿も原資料に基づき正確に記載されており、決算内容は適正である旨報告した。

議長は、本議案について承認を求めたところ、第2号議案については満場一致をもって可決・承認された。

◎報告事項

次に議長は、報告事項となっている令和7年度の事業報告並びに令和8年度の事業計画及び予算についての説明を求めた。

事務局は、議案書に基づき、活動基本方針を読み上げ、計画した事業についてはほぼ実施したことを報告した。主な実施事業は次のとおり。

会活動の要となる「組織基盤の拡充」については、理事会初め、種々の機会をと絶えてその重要性に鑑み、「一役員1社以上の新規会員の獲得」を合言葉に推進に努めた。

結果、20社の新規会員の加入は獲得したものの、経営者の高齢化、後継者不足等を理由とする事業の休廃業は依然として後を絶たず、加入者を大きく上回る35社の退会があり、会員数は630社となった。

【税知識の普及を目的とする事業】

新設法人説明会は、11月6日、山鹿税務署と共催で開催し、3社5名の参加があった。租税教室については、令和7年度、山鹿市内のすべての小学校8校、植木町の小学校2校の計10校で実施した。租税教室に際し、青年部会、女性部会の役員延べ48名が参加した。

また、会員に対する税務研修については「令和7年度の税制により所得税の基礎控除の大幅な引き上げ」に対処するため、税務署の協力も得て、支部研修において「令和7年度申告所得税の年末調整の留意事項」を研修し、会員企業の年末調整事務に寄与した。

くまもとZei税ウォーキングは県連との共催で、本年度、人吉市の「ひとよしくらふとパーク石野公園」において開催され、県下から合計90名の参加があった。当会からも退会スタッフとして2名が参加した。

【納税意識の高揚を目的とする事業】

女性部会の税に関する絵はがきコンクール活動については、租税教室を開催した小学校は勿論のこと、山鹿市のすべての小学校及び植木町北部の5小学校にコンクールへの応募をお願いし、508枚の応募があった。また、入賞者に対する表彰状の作成に当たり、入賞作品を織り込んだ表彰状を作成交付するなどし、次回への応募意欲の高揚にも配意した。また、入賞した作品については、NFT開始、希望者にデジタルの記念品として提供した。

【地域社会への貢献を目的とする事業】

献血活動については、年2回、植木町（10月にウエッキー）、山鹿市（11月にMr.マックス山鹿店）で実施していたが、ウエッキーでの献血は午前中の引受先が退去し、加えて献血者の増加が見込めないとして献血バスの派遣が中止となったため、山鹿市のみでの実施となった。45名の受付と42名の献血を得た。

【会員の交流及び会員支援並びに福利厚生に資するための事業】

会員相互の親睦や情報交換に資するため、総会後の交流会、親睦ゴルフ大会、ボウリング大会等を事業計画に即して実施した。

【令和８年度事業計画及び予算】

令和８年度事業改革及び予算については、令和７年度と同様な事業を実施していく。

また、予算については、令和７年度とほぼ同額となっているが、事業費用も人件費、通信運搬費の増加等により増加する見込みであり、令和８年度末の正味財産期末残高は大きく減少することが見込まれ、新規会員の増強がより一層重要となる。

◎功績に対する表彰等

納税表彰関係

本年度から、納税表彰の表彰については通常総会等、多くの会員が参集する場で改めて表彰式を取り扱う旨の連絡を受けたため、表彰式を行うこととなった。

山鹿税務署の前田署長から次のとおり表彰状が授与された。

国税庁長官表彰	本田 雅晴 様	千代の園酒造(株)
山鹿税務署長表彰	栗原 輝美 様	(有)いわの観光

会員増強に尽力した役員に対する表彰

中山会長から、表彰状の授与があった。

加入勧奨 ３社以上５社未満 本田 雅晴 様（前会長）

複利厚生制度への貢献があった者に対する表彰

中山会長から、表彰状の授与があった。

法人会の経営者大型保証制度の新規契約６億円以上

	榎原 麗 様	大同生命保険(株)玉名営業所
紹介運動による成約	富丸 寛之 様	(株)マックス・ベア

◎来賓祝辞

次いで、ご臨席をいただいた来賓の方々より祝辞をいただきました。要旨、次の通り
《山鹿税務署長 前田康成 様》

山鹿法人会の皆様方には、「法人会は税のオオニオンリーダー」として適正申告や、期限内納付に取り組んでいただき感謝申し上げます。

令和７年度の所得税確定申告においてはスマホによる電子申告を呼び掛けた。法人会の広報施策等もあり、全管でも高い利用割合となり、感謝申し上げます。今後とも、更なる国税庁が推進する行政のデジタル化に協力をお願いします。

また、令和７年度、「関係民間団体への支援策」として税山鹿務署が進めてきた施策等についても紹介があった。特に、令和７年度は短時間に当会の活動内容等を紹介した動画を視聴いただけるよう QR コードを名刺に掲載していただくなど、今後の会運営に大きく寄与いただいている。

《鹿本地域振興局長 時田一弘様》

管内の法人事業者の半数以上が加入する団体として、種々の県行政のリーダーシップを担い、情報発信等に寄与頂いている。また、多くの社会貢献事業に敬意を表する。熊本県はＴＳＭＣの来熊により、「シリコンアイランド」として益々半導体関連の企業の立地は増加し

ていくものと予測する。本年度から県内大学の中に産・官・学による半導体の開発研究を行う施設等も創設され、ますます重要な産業としていかなければならない。法人会に対しては今後とも、県行政の健全な推進にご協力をお願いする。

《山鹿市長（代理）市民部長 鬼塚 敦夫 様》

法人会の諸活動に感謝申し上げます。特に、青年部会・女性部会の皆様で取り組んでいた小学生に対する租税教室については、未来のタックスペイヤーとして次代を担う子供たちに大きな影響を及ぼす活動と評価しているところであり、子供たちも法人会租税教室を楽しみにしていると聞いている。今後とも、より良い山鹿市発展のため、ご協力をお願いする。

《大同生命保険(株)熊本支社長（代理）玉名営業所長 山本浩平様》

法人会の福利厚生制度推進について、厚く御礼申し上げます。

令和7年度からは新たに「ネクストチャレンジ100」として次の100年に向けてゆるぎない財政基盤の拡充に受託会社3社、一丸となって取り組んできた。

結果、役員の皆様の紹介運動もあり、熊本県は優秀な成績をあげることができた。改めて、山鹿法人会会員の皆様にお礼申し上げます。

以上のご挨拶の後、ご臨席いただいた各来賓のご紹介並びに祝電の披露があった。

最後に、田中栄一副会長が閉会を宣し、通常総会は無事、終了した。

第2部 講演会

本年度は、山鹿を舞台にした（オール山鹿ロケ）映画「骨なし灯籠」の脚本・監督を務められた「木庭撫子」氏を講師としてお招きし、「山鹿『』やまが」を世界の『YAMAGA』へ ～映画で伝える」挑戦～」と題して講演をお願いしました。

木庭撫子様は、愛知県名古屋市のご出身で大学卒業後に「ドラマ雪の国から」の脚本で有名な倉本聰主宰『富良野塾』で脚本を学ばれ、主にテレビドラマの脚本家として活躍されていました。

主な作品としては、デビュー作『陰の季節』（TBS/川上隆也主演）、『スロースターター』（NHK 土曜ドラマ/水野美紀主演）、『天国へのカレンダー』（関西テレビ・ヒジテレビ/藤原紀香主演）等があるとのこと。

2021年9月にご主人の父の実家であった山鹿にご主人とともに移住してこられました。実家の改修等のため何度か山鹿市に訪れる際に、自然と伝統ある文化に富み、また、山鹿の人々の情の暑いこの山鹿後にいたく感動されたそうです。特に、小学生が立ち止まって見ず知らずの大人に立ち止まって挨拶する姿には驚かされたそうです。東京では子供が大人に挨拶するようなことはほぼないとか。まして大人が子供に声を掛けたら「犯罪者」扱いになることもままあるのが実情のようです。

移住当時、木庭先生によると、「山鹿」を知っている人は少なく、倉本聰先生から「山鹿灯籠祭り」で有名なところだろう・・・というコメントがあった程度だったとか。

そこで、この山鹿で映画を創ろうとご主人と映画づくりに取り組まれ、2022年8月に『骨なし灯籠』は完成しました。

2023年、海外の映画祭に出品（女性・初監督作品として）され、トロント国際女性映画祭（カナダ）で最優秀初監督賞、ロサンゼルス映画祭（アメリカ）で最優秀初監督賞、最優秀予告編賞、チネチッタ国際映画祭（オランダ）で観客賞3位などの高い評価

を受けられましたが、実際に映画館で上映していただくことは想像以上のご苦労もあったとか。私たちは大きな製作会社が作った映画でよく興行収入が〇〇億円というような情報をテレビ等で目にします。

しかしながら、木庭先生が個人で製作された映画は、配給映画館を有しない映画制作会社の作品「インディーズ」といわれるらしいですが、映画館に持ち込んでも簡単には、上映してもらえないそうです。加えて、興行収入（入場料金）の50%は映画館に支払う（大きな映画館であれば、その比率はもっと高くなるとか。加えて、映画のチラシ作成やコマーシャル（予告案内）等に映画製作の2倍以上のお金がかかることもままあるそうです。

また、せっかく上映が認められても最初は1日だけの上映とか、そして、観客の人数によって上映日数が延ばされていくようなシステムであるとのことでした。

2024年3月に、国内で熊本での先行上映が熊本市のDenkikanではじまり、この工業は5か月のロングランとなりました。

このロングランを機に、国内配信できる映画館を求めて神戸、名古屋を経て東京へ進出されましたが、いずれも、最初はなかなか厳しい状況だったとか。

世の中、悪いことばかりではありません。

2024年、ヨーロッパ系航空会社6社の機内上映に選定されます。（ブリティッシュ航空・エアウェイズ航空（イギリス）・ルフトハンザ航空（ドイツ）・スイス航空・ウイーン航空・オマーン航空・エジプト航空）。

中には、この映画を見て山鹿を訪ねてきて、映画と同じ山鹿の風情に感動してくれた観光客もあったとか

これらの実績が評価され、また、東京での興業が順調に推移するようになり、高知、福岡、宮崎、鹿児島と、2026年には福岡（再）、仙台、秋田など、全国各地の映画館で山鹿の魅力が発信中です。

今後、2026年秋には、マギル大学（カナダ）、クライストチャーチ（ニュージーランド）での上映も予定されているとか。

映画というものは、製作するより上映するほうが2倍も3倍も大変です・・・と言われた言葉が、映画を製作する上での現実的な試練があるのだと心に残りました。

木庭先生は、また「山鹿」での映画を創りたいと目を輝かせておられました。

講演後、事業研修委員長の木村寿雄副会長が、私も一度、映画を鑑賞した。素晴らしい作品であると思いました。今日は、映画のお話ではなく映画を製作する事業者の経営者としての立場からのお話も織り交ぜたお話をいただき、大変参考となった。

先生の新たな映画で更なるご活躍をお祈りしますと。謝辞を述べた。

最後に、栗原輝美女性部会長がお礼の花束を贈呈し、講演会は無事終了した。

映画製作には数億円の資金が必要とのことですが、ふるさと『山鹿』が世界の『YAMAGA』として発信され、広く世界中から多くの人々が山鹿に足を運んでいただく日が来ることを期待したい。

第3部 交流会

交流会の冒頭、来賓としてご出席いただいたA I G損害保険株式会社熊本支店の法人会戦略部長山口強様の乾杯に始まり、旧知の会員とおしの話は大いに盛り上がった。

また、本年度の新規試みとして、入会3年以内の新規会員に対して総会（交流会を含む）への参加と働きかけた結果、6社の新規会員の参加があり、ステージの上で事業所とお名前の披露をしていただいた。

参加いただいた事業者の皆様はつぎのとおり。来年もぜひ、ご参加いただきたい。

なお、各テーブルの上には本年も「3010運動」のミニ三角柱を配置し、しっかり「フードロス問題」に取り組む女性部会であった。

最後に、岡部友一副会長（総務委員長）の中締めの音頭で、交流会を終了した。

第29回 女性部会定時会員会

公益社団法人山鹿法人会女性部会「第29回定時会員会議」が、令和8年6月9（火）山鹿市の「富士ホテル」において、本会通常総会の前に開催された。

部会員35名（本人出席15名、委任状提出20名）の参加があり、来賓として山鹿税務署の前田署長、三次統括官、本会から中山会長及び各副会長並びに受託保険会社3社の各熊本支店幹部の方々をお迎えしての開催となった。

稲葉理事の開催の言葉に続き、会員会議の冒頭、栗原女性部会長が概ね、つぎのとおり挨拶した。

令和7年度から本田全部会長からいみじくも部会長を引継ぐこととなった。県連内の役員の異動も多く、南九連、全法連も理事を仰せつかることとなった。当初は私でできるかな・・・という危惧も感じていたが、会議や全国女性フォーラム北海道大会、南九連女性の集い、嫌煙女性の集い等に当会からもさんかする中で、多くの仲間と情報共有することができ、法人会の素晴らしさも知ることができた。令和6年度に全本田部会長が立ち上げた部会員の交流会「歳祝いの会」も2回目を皆済し参加いただいた部会員のお顔を拝見すると、「女性部会は楽しい会でありたい」と考えている。本年度も「歳祝いの会」は開催する予定で進めている。今後とも女性部会の活動にご協力をお願いしたい旨挨拶があった。

本会の中山会長から概ね次のような挨拶があった。

法人会を取り巻く環境は、物価の高騰、人手不足、ホルムズ海峡問題、デジタル化の進展など、厳しい状況下にあるが、こうした時代だからこそ、地域企業が連携し、知恵を出し合い、持続可能な経営を目指すことが重要である。

女性部会の皆様には当会の運営、地域経済の発展、社会貢献活動に多大なる尽力をいただき、感謝申し上げます。

女性ならではの視点を活かした明るく前向きな取り組みは、ほうじんかいに活力をもたらし、その姿勢には私自身も学ぶところが多くある。租税教室、税に関する絵はがきコンクール、地域イベントでのボランティア活動などの活動は、税の啓発だけでなく、山鹿法人会の信頼向上にも大きく寄与している。女性部会の柔軟な発想力と行動力は、今の法人会に欠かせない力である。今後とも、親会との連携を深めながら、時代を見据えた魅力ある活動を展開していただき、ともに山鹿・植木を盛り上げていこう。

第1号議案「令和7年度の事業報告及び収支決算報告承認の件」

その後、竹下理事の司会の下、議案審議がされた。

栗川副部長による令和7年度事業報告の後、松本理事から令和7年度収支決算の状況が説明され、石橋監事から監査報告があった。そして、第1号議案は、満場一致により可決承認された。

第2号議案「令和8年度事業計画及び収支予算（案）」

岡部副部長により令和8年度の事業報告が、松本理事から同予算案の説明があり、満場一致で、原案通り可決承認された。

なお、令和7年度における女性部会の事業方針、計画等は次のとおり。

1. 令和8年度の活動基本方針

女性部会は、女性としての視点に立って本会の事業を積極的に推進するとともに、研修会及び親睦交流等を通じて部会員の事項啓発を図ることを目的として活動すると
の理念の下、全法連女戦況及び本会の事業計画に則した事業を推進していく。

特に、全法連女連協が取り組んでいる「いわゆるフードロス問題」については、本年度でもできるものを公益事業の中に組み入れて対応していく。

2. 事業活動

(1) 全国女連協、南九女連協、県女連協事業への参加

- 全国女性フォーラム埼玉大会

4月16日～18日

- 県女連協 女性の集い in 熊本

10月22日（山鹿が担当）

- 南九女連協女性の集い in 宮崎

11月17日

(2) 税務研修会

(3) 公益事業1（租税教育事業への参加・税金クイズ等の実施）

(4) 公益事業2（環境保全活動・献血活動・食品ロスへの対応等）

(5) 会員の親睦を図るための会合並びにレクレーションの実施

(6) 女性部会組織基盤の拡充（新規会員の加入推進）

35回 青年部会定時会員会議

去る、令和7年6月5日（木）、山鹿市の「喜久家」において、「公益社団法人山鹿法人会青年部会第34回定時会員会議（総会）」が開催された。

部会員総数55名。部会員43名（本人出席23名、委任状提出20名）の出席があり、青年部会会則の変更、令和6年度の事業報告、収支決算の承認、並びに令和7年度事業計画及び収支予算(案)等が審議された。

冒頭会員会議の冒頭、立花吉宗部会長が令和7年度の青年部会の活動状況についての総括及び各役員、部会員に対するお礼とともに、令和8年度も多く部会員が集えるようなイベントが開催できるよう努力していくので、役員初め、部会員の皆様の協力をお願いしたいと挨拶した。

第1号議案「令和7年度の事業報告及び収支決算報告承認の件」

宮本専務理事の司会進行の下、議案審議が行われ、永田副部長から令和7年度事業報告が、古澤会計理事から決算報告があった。本田監事の監査報告を受け、第1号議案については、可決・承認された。

第2号議案「令和8年度事業計画及び収支予算（案）」

宮本専務理事が令和7年度事業計画について、古澤会計理事が令和8年度予算（案）についてそれぞれ説明があり、提案された議案については、満場一致で可決・承認された。

なお、令和8年度の事業計画等については次のとおりである。

《令和8年度事業計画》

【基本方針】「青年の持つ柔軟な発想と行動力を持って、本会の事業を積極的に推進するとともに、研修会及び交流会等を通じて次代を担う経営者としての資質向上を図ることを目的とする」との基本方針の下、次の事業を行う。

- 1 将来に向けた組織づくり
- 2 租税教育活動を中心とした活動実施
- 3 企業繁栄と地域社会への貢献
- 4 青年部会主催の各種大会への積極的参加
- 5 部会員の親睦事業の開催(他団体交流を含む)
- 6 従来に参加事業見直し(新規事業の発掘)

《卒業会員・新入会員の紹介》

次に、令和7年度をもって青年部会を卒業される方々の紹介があった。

令和7年度をもって卒業された部会員の方々は次のとおり。

- 富丸 寛之 様 (株)マックス・ベア ○ 坂元 龍士 様 (有)久吾
○ 富田 浩一 様 (有)富田建設 ○ 塚本 章博 様 (株)ルームタクト

立花新部会長より、定時会員会議に出席鵜のあった卒業された先輩方に対して、記念品の贈呈が行われた。

また、新たな新入部会員の紹介があり、次の方が新たな仲間（部会員）となった。

- 川添 好史 (株)Sea Four ○狩野 壮太郎 (同)エミリオ
○淵上 雄世 様 (株)ルミネル ○後藤 佳司 様 (有)ごとう
○榎 哲郎 様 River ○立山 洋右 様 (株)立山石油ガス